

当院にて食道癌または胃癌の治療を受けられた方へ

当院では食道胃接合部腺癌および食道腺癌におけるリンパ節および臓器転移の危険因子に関する検討（多施設共同研究）に参加しております。この研究はがん拠点病院およびそれに準ずる全国施設による多施設共同研究です。東京大学医学部附属病院はこの研究参加施設として参加致します。

【対象となる方】

2000年1月1日～2014年10月31日の間に本院消化器内科および胃食道外科で食道胃接合部腺癌および食道腺癌と診断され、内視鏡切除もしくは外科切除を施行された方

【研究の意義】

バレット食道癌は欧米において最も急速に増加している癌ですが、本邦においてもヘリコバクターピロリ感染率の低下とともに増加が懸念されています。一方、食道接合部に発生する癌は、ヘリコバクターピロリ感染により萎縮や腸上皮化生を来した粘膜を背景に発生する癌と、胃酸や胆汁の逆流による炎症を背景に発生する癌があると考えられています。ヘリコバクターピロリ感染に関連し発生する癌が多くを占める胃癌ではリンパ節転移の危険因子が明らかになっていますが、この結果を、違う病因を背景に発生する癌が混在する食道胃接合部癌や、胃とは違う壁構造を有する食道から発生するバレット食道癌にあてはめることができるかどうかは分かっていません。

【研究の目的】

食道胃接合部癌および食道腺癌におけるリンパ節および臓器転移状況を調査し、転移の危険因子を明らかにします。

【研究の方法】

この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、倫理委員会の承認のうえ実施されます。これまでの診療でカルテに記録されている病理結果や画像検査などのデータを収集して行う研究です。収集したデータは、匿名化され個人情報を含まない状態にしたデータシートが大阪府立成人病センターに送られ解析されます。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

この研究のためにご自分のデータを使用してほしい場合は主治医にお伝えいただくか、下記の研究事務局まで平成27年8月31日までに御連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。研究結果は、個人が特定出来ない形式で、学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示します。下記までご連絡ください。ご不明な点がありましたら主治医または研究事務局へお尋ねください。

平成27年7月

【研究機関名】

食道胃接合部腺癌および食道腺癌におけるリンパ節および臓器転移の危険因子に関する検討

研究統括医師：小山恒男 佐久医療センター 内視鏡内科部長

東京大学医学部附属病院は分担研究施設に登録しています。

本研究に必要な資金は東京大学医学部附属病院光学医療診療部の委任経理金から支出されています。尚、あなたへの謝金はございません。

【問い合わせ、苦情等の連絡先】

東京大学医学部附属病院 光学医療診療部 准教授 藤城光弘

住所：東京都文京区本郷7-3-1 電話：03-3815-5411（内線 34140）FAX：03-5800-9015

Eメールでのお問い合わせ：mtfujish-kkr@umin.ac.jp